

三宮 十五郎 議員

日本共産党
弥富市議団

高齢者や障がい者が安心して暮らせるまちづくりを

問

これまで市と周辺医療に海南病院が果たしてきた役割は多くの市民が認める中、海南病院が救急救命センターの指定^①は、高齢期を迎えた多くのお年寄りや、市民全体の問題であると捉え尋ねる。



DPC対象病院、Ⅱ群病院に指定。DPC対象病院は全国に1千585病院あり、その機能や役割に応じて、Ⅰ群(大学病院本院)、Ⅱ群(大学病院本院に準じた診療機能を有する病院)、Ⅲ群(それ以外の病院)に分けて指定されている。Ⅱ群病院は、「高診療密度」、「医師研修の実施」、「高度な医療技術の実施」、「重症患者に対する診療の実施」という4つの実績要件

保する以外ないと聞けが、海南病院に聞き取りを行うなど早急な対応が必要ではないか。

地域ケアを進め医療の機能分化に理解を

答 市長

をすべて満たすことが条件で、県内でわずか8病院、全国でも99病院しか指定されていない(海南病院HPより)。

- (1) 救急指定を受けたことに伴い、以前回復期リハビリ病床が60床あったがそのために特化されてしまっている。市は、関係市町村と協力し必要な病床確保に対する取り組みをすべきでないか。
- (2) この地域周辺の在宅医療の往診制度の現状についてどのように認識しているか。
- (3) 実際には開業医は往診できる状態ではなく、海南病院自身が往診スタッフを確

(1) 患者の立場からすれば完治まで病院に診てもらいたいのは当然のことであると認識しており、海南病院に対し市民の代表として、市民の立場で意見を申し上げるとともに関係市町村と一緒になり要望していく。

ベッドの床数についても今一度要望していきたい。

一方、今後の海南病院のあり方は、完結型の治療は厳しい状況であり、今後はより一層地域の医療機関、施設と連携を図り地域ケアを進め医療の機能分化を理解していく必要があると思っている。

(2) 市には海部医師会所属の1次医療機関の17の開業医があり、うち12の開業医では条件的な違いはあるも

の往診制度をとっていると認識している。

(3) 院長からは地域医療の努力は惜しまないと聞いている。地域の医療機関の根幹をなす基幹病院としての役割をしっかりと担っていただくよう協議を進めていく。

市民の皆様にお願ひすることは、最初から総合病院にかかりたいという気持ちには理解しているが、まず自分の体をよく知るかかりつけ開業医で診てもらっていただきたい。

国の介護制度の改善を許さず、安心の介護へ

(1) 国は介護サービス要支援1・2の要支援認定者に対する訪問介護、通所介護(の大幅な切り下げと業務を市町村で担当するという方針を打ち出したが、市はどのように対応していくのか。

(2) 愛知県は平成20年4月以降新たに65歳を過ぎて身体障害者等級1・2級相当

となった方々への手当支給を取りやめた。市長は改善を求めていきたいと表明したものの、県は一切改善の動きを見せていないがその後は。

海部地区・広域組合全体で協議し取り組んでいく

答 市長

(1) 海部地域全体で連携をとる内容・基準・単価の協議をし取り組んでいく。また要介護認定を行う海部南部広域事務組合(弥富市・蟹江町・飛鳥村)でも協議をしていく。

(2) 第155回愛知県市長会で議案提出し、見直しを強く要望した。県は高齢になつてから障がい者となった場合、要介護認定を受けることができるので、介護保険給付サービスを受けていただくということであつたが、今後も機会あるごとに要望していく。